

# 【産婦人科】

## 1 研修目標

### 一般目標

- (1) 婦人科疾患の急性腹症を研修する：救急外来で対応する時、女性特有の疾患を鑑別し初期対応に当たれるように研修を行う。
- (2) 女性のプライマリーケアを研修する：女性性器の構造と性機能を理解するため、解剖と女性ホルモンの作用を理解する。思春期性成熟期、更年期、老年期と、女性のライフサイクルの変化に伴う生理的、肉体的、精神的な失調に起因する様々な疾患を系統的に診断し治療法を理解する。
- (3) 生殖医療についての研修をする：月経異常、妊孕希望の女性に対する生殖機能の検査ならびに治療について理解をし、社会問題である少子化についても考えていただきたい。
- (4) 婦人科の腫瘍疾患の研修をする。良性・悪性で女性特有の腫瘍性病変の検査、診断、治療を的確に判断するために研修を行う。検診業務についての理解を深めていただきたい。
- (5) 周産期医療について基本的な知識を研修する：妊娠、分娩、産褥期の正常と異常疾患ならびに新生児の管理について基本的な考えを理解する。妊娠ならびに授乳中の薬剤使用についての基礎知識をつけていただきたい。
- (6) 感染症について研修する：抗菌剤の理解と婦人科のSTDについて、症状、検査、診断、治療を理解する。

### 行動目標

#### (1) 婦人科

- ①診察：婦人科の基本的な診察として、外診、内診、経膈超音波検査および細胞診採取ができる。
- ②腫瘍：画像検査の読影、腫瘍マーカー検査の判断を行い、診断ならびに治療方針を理解できる。
- ③内分泌疾患、不妊症：適正な検査法を理解し、検査結果を判断する。また患者さんに基礎体温測定の指導ができる。
- ④中高年の機能障害：更年期障害、骨粗鬆症、骨盤臓器脱等について病態を理解し、方針を立てる。場合により他科との連携を図る。
- ⑤婦人科手術：手術の適応を理解し、担当医の助手を務める。術後管理を行う。

## (2) 産科・周産期

- ①妊娠：妊娠成立について理解し、母体、胎児、新生児の整理を理解し適切に説明できる。妊娠の診断、外診、超音波検査を行える。
- ②妊娠管理：正常妊娠、異常妊娠、妊娠の合併症を理解し、診断および方針・管理の方針が示せる。合併症を認めた時には他科との連携を理解し紹介できる。
- ③分娩：正常分娩の見学を行い、介助が行えるようにする。分娩監視装置による管理を行い、分娩の異常を判定できる。分娩時に血管確保や新生児の診察あるいは会陰縫合の介助ができる。助産師・看護師とチーム医療ができる。
- ④妊婦・授乳時の薬物療法：妊娠中や授乳時に使用ができる薬物（母体、胎児への影響）を理解し処方適否を理解できる。
- ⑤産科手術：妊娠中あるいは分娩時の手術の適応を理解し、専門医の助手を務める。術後管理を担当医と行う。

## (4) 産婦人科救急疾患

婦人科では、卵巣茎捻転、卵巣出血、PID、月経困難症の診断と治療方針について理解できること。産科では、異所性妊娠、流産、非常に稀ですが胎状奇胎の診断についての知識を持ってもらう。妊娠中期以降の急性腹症は、産婦人科の医師への連絡が必要な事を理解する。

## 2 研修方略

### (1) 研修期間

4週間の研修期間を産科および婦人科の研修に配分し、責任医ならびに指導医が意識して産科と婦人科を均等に研修できるように留意する。

### (2) 方法

- ①外来で指導医の診察を見学し、婦人科の基本的な外診・内診および経腹・経膣超音波検査を習得しカルテに記載する。
- ②入院患者さんの担当医として、指導医の助言・助力を受けながら経過観察、診察、処置を行ないカルテに記載する。
- ③指導医・担当医が本人および家族に説明を行う時には同席し、インフォームドコンセントやコミュニケーションの方法を習得する。チーム医療として看護師との話し合いにも参加する。
- ④正常分娩の経過を理解するため、指導医・担当医や助産師の助力を得ながら、出来れば分娩が取り扱えるよう研修する。
- ⑤手術においては、手洗いおよび清潔手技について理解し、指導医・担当医の助手として手術に参加し、手術手技を研修する。術後管理についても

研修する。

行動目標	方法	場所	担当者
基本診察	実施	外来	山下 裕幸
疾患	症例・講義	外来・病棟	山下 裕幸
分娩	見学	病棟	山下 裕幸
手術	見学・助手	手術室	山下 裕幸

### (3) 週間スケジュール

月曜 8:30～12:00 外来 12:30～13:30 昼休み 13:30～17:00 病棟  
火曜 8:30～12:00 外来 12:30～13:30 昼休み 13:30～17:00 講義  
水曜 8:30～12:00 外来 12:30～13:30 昼休み 13:30～17:00 手術  
木曜 8:30～12:00 外来 12:30～13:30 昼休み 13:30～16:00 外来  
金曜 8:30～12:00 外来 12:00～13:00 昼休み 13:00～17:00 手術

\*入院患者さんがあれば適宜病棟処置

\*手術がない時には講義、カンファレンス等

### 3 研修責任者

産婦人科部長 山下 裕幸

### 4 研修指導医

産婦人科部長 山下 裕幸

### 5 評価

(1) 研修医は臨床研修評価表に毎月の達成状況を自己評価する。

(2) 指導医も臨床研修評価表に毎月の達成状況を評価する。

(3) 研修医は退院時に分娩、手術の受け持ち患者さんのサマリーを作成し、指導医に確認をしてもらう。この時指導医は、診断、記述内容、退院後の方針について評価ならびに指導を行う。

(4) 研修医は研修終了時に臨床研修評価表で自己評価をし、指導医も同様に産婦人科研修終了の最終評価を行う。

研修医は科のプログラムの評価を行い、研修の感想、希望事項等を行う。

\*産婦人科研修前に、特に研修希望の項目があれば言ってください。